

米海兵隊と米海軍が共存する

極東最大級化した 岩国基地



すべては岩国基地沖合移設事業が元凶

滑走路を沖合に移設した米軍岩国基地。軍港も併設される。本州唯一の「海兵隊基地」が君臨し、FA18 ホーネットの部隊や、最新鋭ステルス機 F35B の部隊も常駐する。加えて、海上自衛隊の航空機部隊もあり、民間の岩国錦帯橋空港が共存する。一兆円近い整備費をかけて基地機能は強化された。

艦載機移駐・・・国の醜い介入

2006年3月、空母艦載機移駐計画の受け入れの賛否を問う住民投票が行われ、反対票が87%を占めた。06年4月の長選挙では、移駐反対を訴えた井原氏が当選を果たしたが、国は新市庁舎建設費の07年度分の交付金約35億円の支給を見送った。市長が代替財源として打ち出した合併特例債の発行を盛り込んだ予算案は、市議会で4度にわたって否決され、出直し選挙で移駐容認派の市長が当選をした。

2002年から始まった「米軍再編」によって、本州で唯一の米海兵隊航空基地から、横須賀を母港とする米海軍の空母艦載機部隊が移駐。「アジア・太平洋地域における戦闘や有事の活動の際、米軍、同盟軍に支援を提供することになり、朝鮮半島有事の際に真っ先に日本から援軍に駆け付ける航空機の揃う最前線基地。



横須賀基地（神奈川）を拠点とする原子力空母「ロナルド・レーガン」の艦載機61機。5月ごろには今回の第2陣に加え24機のスーパーホーネットが移駐

岩国基地に配備の米軍機は 120 機超。

航空機の総数は自衛隊も加えれば 160 機。



E-2D 早期警戒機

アメリカ海軍が艦上機として運用するために開発した早期警戒機。機体背面に大型の円盤型レドームを有し、強力なレーダー・電子機器により、対空警戒・監視を行なう。



最新鋭ステルス戦闘機「F35」で、短距離離陸・垂直着陸（STOVL）ができる



米軍普天間飛行場からKC130空中給油機15機が移駐